



～『犯罪機会論』～



これまで、「犯罪原因論」という考え方が主流でした。

「犯罪原因論」とは、犯罪の原因を明らかにしようという考え方です。

犯罪者の『人』に注目し、
異常な性格や、生い立ち、劣悪な境遇などに犯罪の原因を求めるものです。

何か事件があったときに、
犯人の人物像について報道されたりしますよね。

事件の後に、その人の人格に迫っても、もう手遅れです。
また、人の性格や考え方を変えて犯罪を防ぐことはとても難しいです。



犯行の動機



犯人の性格

生まれ育った
境遇

犯罪原因論

～『犯罪機会論』～



『人』に注目する犯罪原因論ではなく、
『場所』に注目するのが『犯罪機会論』です。

「犯罪の機会を与えない」ことによって犯罪を未然に防ぐという考え方です。
近年の様々な防犯対策は、
この「犯罪機会論」に基づいたものになってきています。

「犯罪を行いやすい環境」を取り除く。
言い換えれば、犯行に都合の悪い状況や、犯罪を行おうとする者に、
犯行をあきらめさせる状況をつくり出すことによって、
このまちの中で、犯罪を防いでいくことができます。

パトロール活動などの際には、犯罪の起きやすい『場所』に着目して
重点的にチェックするようにしましょう。



「人」に注目



犯罪原因論

「場所」に注目



犯罪機会論

～『犯罪機会論』～



「犯罪機会論」では、「監視性」「領域性」「抵抗性」の3要素が重要です。

① 「監視性」の強化とは、『見えやすい』環境をすることです。

視認性を高める防犯カメラや防犯灯の設置、

雑草や木の手入れをして、見通しを良くすることも大切です。

また、地域での活動や日頃からの挨拶など、繋がりを深めていくことは
犯罪者への監視性を高めることにもなります。

② 「領域性」の強化とは、『入りにくい』環境をすることです。

ガードレール、フェンスなどによって入りにくくすることは大切です。

また、パトロール活動を行ったり、防犯看板を設置することで、

防犯対策を行っているエリアであることをアピールするのも有効です。

③ 「抵抗性」の強化とは、『自分の身は自分で守る』という防犯意識を

高めていくことです。防犯ブザーを持ち歩いたり、施錠を確実にしたり、
家の周りなどを整理整頓しておくことです。

また、情報収集を日頃からしておくことも大切です。

これらを意識して、犯人に犯罪の機会を与えないことで、

犯罪を未然に防ぎましょう！

おしまい、おしまい。

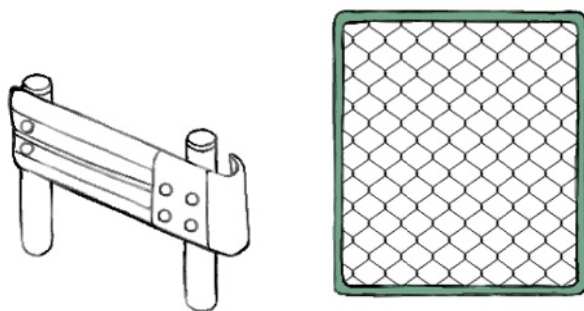
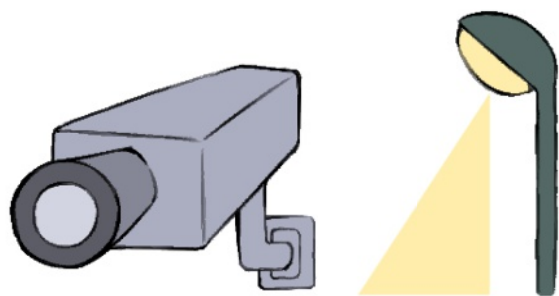


作成：認定NPO法人好きっちゃ北九州

一般財団法人ハウジングアンドコミュニティ財団

2023年度「住まいとコミュニティづくり活動助成」

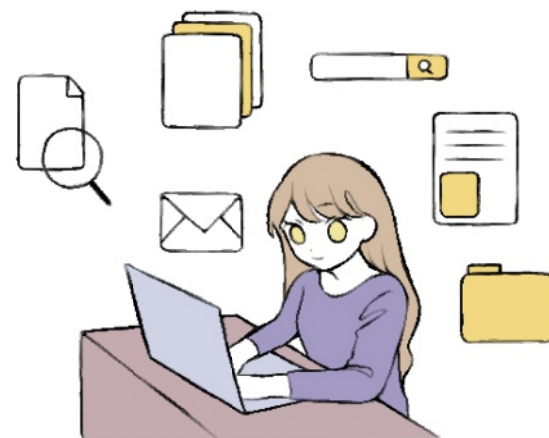
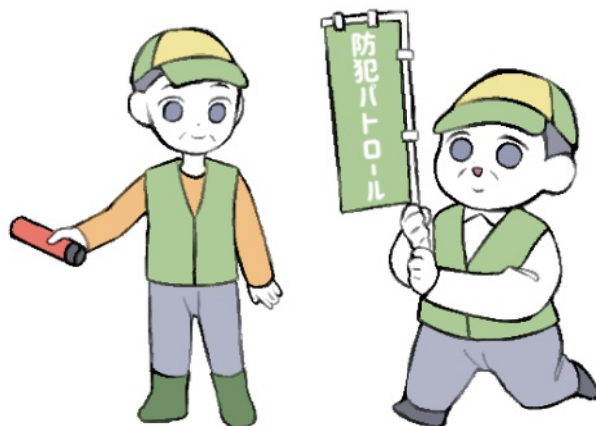
絵：伊藤 美栄



監視性

領域性

抵抗性



～『犯罪機会論』～



『犯罪機会論』という言葉をご存知でしょうか？

犯罪はなぜ起きるのでしょうか？

いくら防ごうとしても、犯罪者はどこで何を企んでいるのか分かりません。

どうやったら犯罪を減らしていくことができるのでしょうか？

このまちが、犯罪の無い、安全安心なまちになっていくには
どうしたら良いのでしょうか？

『犯罪機会論』という考え方をご紹介します。

